

戰禍の恐怖を忘れたかの様に又抗
日の悪夢から目醒めた歸順兵も明
朗支那建設に力強く皇軍の歩
調を共にして動く姿を各地隨所
期らかなしめて嬉しい情景を見受

内郷村報の 六大使命

- 一、政策推進を期して、村力充實主義を標榜す。
- 二、村内公私各機關の活動状況を報導し併せて其協調を計り、進現和進努力の實現を期す。
- 三、本村社会事業の徹底を期す。
- 四、村内の善事善行を表彰し、且之を獎勵す。
- 五、本村を本村出身者及本村寄居者との聯絡を計り、且其發展向上を期す。
- 六、國民教育に當る。

内郷村報

天 人 則
法 順 則
ル ベ シ ナ

有田外相と 荒木文相に 謁見したる概況

大内民恵

有田外相

海外に於ける第一世補導に關しては、有田外相に、教育制度改革に關しては、荒木文相に、夫々親しく謁見して獻言すべく、五月七日に上京。外務省へは、九日に出頭、先づ有田外相に久闊を叙し、岸秘書官、平澤事務官を通じて、去る一月三十日縣廳に開かれた、本縣海外協會並に海外移住組合役員會に於て、予が陳述したる、海外に於ける第二世補導に關する私見と、二十有餘年前、故大隈侯、安倍磯雄氏等後援の下に、東京に於て予が經營した、第二世補導機關たる春風學園の寫眞を掲載した、本縣海外協會々報を贈呈して其贊助を乞ひ、次いで十一日曾て本縣知事たりし

小柳文部政務次官

に會見して、予が年來の研究たる教育制度の改革私見を語り、此際特に荒木文相に對して、親しく其大要を獻言したき希望を述べたるに、直ちに其餘旋の勢をさるる、事を快諾せられ、菅秘書官をして菅原文相秘書官に其旨を通せられ

荒木文相

た結果、いよいよ五月十三日午後四時三十分より
に謁見する事となつたのである。文部省第三階東北隅の大廣間が、其大居室なのである。大臣は北側窓の中央大卓子を前に、居然椅子に倚つて居られ、それに對して二脚の椅子が置かれてあつた。予は鞠躬一掃して、先づ本日特に不肖の爲に、貴重なる時間を割與せられたるを感謝すれば、席に着けよと手を以て勧められたので、大臣と相對して左方の椅子に腰を下す。

献言の大要

予が前半生の間、内外の教育に携はり、其實験により研究したる結果、教育の學理と、實際との間に矛盾があり、特殊の學校は別として、我國は勿論、全世界の一般學校に於て行はれて居る所謂教育は、眞の教育ではなくして、單に知識技能の教授傳授に過ぎない事を述べ、予の教育制度改革につきては、九つの主義があるのであるが、其中心をなすものは、教育第

市川先生の風貌の印象は「丸」に盡きる。圓い顔、圓い指、圓い體首を稍左にかしげ、丸く弧を描いて歩く様に「へ見えませう。風貌の丸さに似ず、心は勝氣できつ、

本報發行は六内一家の事業にして、其の財源は子孫に繼承する遺言を發するもなり

本報定價 一部五元 一年四十八元
發行所 福島縣石城郡内郷村大字二丁目
編輯者 菅原大内 電話 八四二〇
印刷所 平活版所

一主義、絶對繼續主義、責任分擔主義の三主義であつて、國家主義では、何を措いても、教育第一主義であらねばならぬ事、教育者と被教育者の關係は、一生を通じて絶對繼續主義であらねばならぬ事而して教育者は被教育者に對しては、之亦一生を通じて、其責任を分擔する事が、教育の本義なる事を略説し、例を小學校に於て、現行の制度にあつたは、師範學校を卒業して教員となつたものが、假らば、一學級五十人として、其一生に於て、一千五百人を受持つこととなり、且つ其間數校を轉々するが故に、其師弟の關係は、頗る稀薄にして、且つ其責任を負はんとするも、負ひ得ざる事情にあるのであるが、之を予の絶對繼續主義にあつては、一度師範の校門を出で、任に就きたる小學校は、之れ終生の任地であつて、總べて持上り法により、同上三十年間に於て、五學級即ち二百五十人丈を、絶對繼續して之を受持つ、其在學中は勿論、一生を通じて師弟の關係を保持して、又其師としての責任を分擔するのである。それにはいふ迄もなく、其教員に對しては、精神的物質的にも相當の待遇を與へ、其土地に規範的生活を営ましむべきであつて、現在の如き物心何れも非薄なる待遇にあつては、斷じて優秀なる人物を、國民教育界に迎ふる事は至難である。相當の頭腦を有し、學費に差支ない者は、師範入學なきは夢想でもあつて、他の方面に入ふるが普通で、師範に入學する者は、大体學費其他不如意の境遇にある者が、致し方なく之に入學するといふ傾向で、其素質等に於ても、變じしからざるものが少くなく、

又卒業後の待遇も、前述の通りである處から、刻下の如き非常時に當面して、長期建設を叫ぶる、時に際しても、國民教育の重任を負へる教員が、陸續として、所謂股賑産業に走り、我福島縣に於ては其を補充すべく苦心せざるも、尙且六分の不足を生じ、其對策に悩んで居る次第であるが、最近予は東京市内の十七人の教員を有する、或小學校に就いて調査したるに、其教員全部が他に轉職を企て、居るさいふ事情を知るに及んで、唯啞然たると同時に、萬事は衣食足りてあると、帝國將來の爲に、轉た憂慮に堪へざる感に打たれたる次第である事を列擧し、それには前述の如く教員の優遇と、之に並行して「子」を持たせめて一人丈は師範に」といふ位迄に、師範教育の制度も改革し、教員の地位を高めなければならぬと力説し以上は予の研究の片鱗を申上げたるに過ぎないが、中等學校以上大學に到る迄の各種學校制度改革の大要、並に國家としての教育

全機構に對する私見は、茲に贈呈する拙著「教育制度改革概論」及予の十年來發行し來れる、内郷村報紙上に掲載したる教育に關する社説に就いて御諒承下され、斷然世界をリードする底の、劃期的教育制度の改革に資せられたい。從來歴代の文相に向つても之を獻言したるも更に顧みられず、又今日所謂教育を、眞の教育と信する、全國の一般教育家にあつても勿論同様であつたが、たゞ心強く思はれたのは、故一戸將軍、故花井卓藏博士、矢野恒太氏、前京大總長小西忠直博士等を始め、多數の人々より共鳴賛同を得た事であることを申上げ、且つ

教育審議會

より新聞紙上に發表したる、改革案なるものを一瞥するに、たゞ單に學科の改廢、年限の長短等の改訂に過ぎずして、蓋も教育の本義に觸れてないのは、遺憾に堪へない次第なれば、此際右の委員各位に對して、微衷の一端を開陳して、教育の本義に基ける、制度の

◎從業員大募集!

人員 壹千三百名 (経験が無くても仕事が出来ます)
内 採炭夫 一〇〇〇名 坑内機械夫 一〇〇名
支柱夫 一〇〇〇名 坑内工作夫 五〇〇名
坑内運搬夫 一〇〇〇名
滿十六歳以上五十歳まで (身体壯健のもの)
實費會社にて負擔いたします
一旦以上四回(請負制)に就業時間八時間乃至拾時間
世帯持には住宅を無料で貸與します
獨身者のために寄宿舎あり(食費寝具共一日四十五錢)
緩坑、住吉坑、町田坑(常磐線線下車)長倉坑(本線下車)
希望者は最寄職業紹介所か町役場又は直接會社に
御申込下さい!
東北第一の大炭礦!!
磐城炭礦株式會社礦業所
(福島縣石城郡内郷村大字綴)

一(一面より)
改革を望みたいから、其機縁を興へて頂きたいと懇願し、最後に前記有田外相に贈りたる、海外協会々報を贈呈して、

第二世 補導
機關設立に就いても、深甚なる御考慮を煩はしたいと、お願ひしたるに對して、何れもてを拜見して、何分の挨拶をさいふお言葉

夫は戦線に偉勳を立て 妻は銃後に奮闘す

警城炭礦機電係桑島主任の配下にあつて、模範職工たりし伊達郡湯野村出身永井幸作君(三六)は、一昨年妻みつよ(三三)さんと十七歳の長男を頭に五人の子供達を残して應召出征したのであつたが、戦線にあつて別



君 作 幸 井 永

項掲載の表彰状にある如き偉勳を立て、又其留守を守るみつよさんは、夫が應召した翌日から選炭場に出働し、長男亦製作場に就働して、あとの四兒を學校に通はせ、只管夫の武運長久を神佛に祈願しつつ奮闘して居るの

いたゞいて引き下つたのであつた
×
×
以上は約三十分間に渉つて申上げたのであるが、時しも夕刻、文相には始め聊か御疲勞の御様子であられたが、話を進むに從つて漸次瞳目緊張、時に疑点を下問せられ、熱心に聴取して下されたるには、眞に恐縮に堪へざる感に打たれた次第であつた。

長塚亀好氏の榮譽

大字高坂なる同氏の長男育太君は、鈴木(孫)部隊の配下に屬し、北支中支に轉戦赫々たる武勳を立て、昨年七月十二日戦死したるは既報の通りであるが、此程部隊長より、畑司令官から授與せられた感状の寫しに、懇篤なる書状を添へて父君に寄贈されて來たので一族は今更ながら、當時を追憶して無量の感に打たれると同時に、故人の冥福を祈つて居る次第であるが、又殆んどそれと同時に、同氏が曩に亡き愛兒の追善の

意味を以て、日本赤十字社へ協賛金拾圓を寄贈したるに對し、社長徳川公爵より其旨閣院宮總裁殿下の台閣に達し、木杯壹箇に感謝状を添えて交附されたので、重ね々々の榮譽に、一家は感激の涙を流して居る。

第二回遺族會

五月十一日役場内に開催したるに三十名出席、菅波兵事主任及田口囑託より、各種賜金及扶助料請求の手續き上に關する注意其他に就きて、懇切なる談話を交はし、簡素なる茶菓を饗し正午散會した。

内郷同志會の美舉

三月二十三日村會議事堂に開會、其豫算は收支共に

の至誠を致すべく、會長竹島廉平氏を始め幹部部五百五拾五名が、金八拾圓を獻金し、之を折半して陸海軍兩省へ、福島聯隊區司令部を通じて、國防資として獻金したるに、此程夫々會長宛の感謝状を交附せられた由

服部ごめ子 女史の特志

本紙三月號に紹介した、服部海軍一等看護兵の母堂たる同女史は、其勞務より得たる金拾圓を此程海軍省に獻金した。

内郷村農會

四月二十九日午後一時より、淺野翁頌德記念館に於て、警炭青年會員夜警表彰式と辯論大會とを開催。

辯論大會

四月二十九日午後一時より、淺野翁頌德記念館に於て、警炭青年會員夜警表彰式と辯論大會とを開催。被表彰者。松永寅一郎、小出政雄、佐藤道春、高田積大村繁雄、照井幸一、伊藤常夫、渡邊賢治、泉文之助、半澤肇、久光久雄、佐藤邦久、菅野信義、伊藤松市、松本幸平、山野邊正直、菊地政雄、齋藤明、渡邊正秋、佐久間作惠知、清見一。

精勤賞受領者。峰根、根本春吉外七名。町田、堀田元治外七名。綴、本田市郎外十一名。高坂、多賀喜一外五名。

井戸水試驗

御台境の青年菅原融雄君は、其中心となつて、平保健所に依頼して、同大字三十四戸の井戸水を検査し、夫々處置方法を講じた。

表 彰 狀

右者出征以來格勳勳克々上官ノ命ヲ遵奉シ率先躬行以テ任務ヲ全ウセリ 就中昭和十二年十一月十八日〇〇附近ノ戦場ニ於テ歩兵〇〇隊方面ノ戦線ヲ極メ加フルニ連日降雨ノタメ附近ニ於テ歩ト化シ行動極メ困難ナリシ際〇〇隊長ノ命ニ依リ第一線 傷者搜索ニ赴キ沈著勇敢モ自己ノ危険ヲ省ミルコトナク敵ノ猛烈ナル掃射地帯ヲ闢進中戦友四名相次テ負傷スルヲ迅速ニ之ヲ處置シ其生命ヲ完フセシメ更ニ夜ニ入ルヤ自ら負傷者ヲ誘導シ本隊トノ連絡ヲ確保シ爾後ノ作業ニ至大ナル貢獻ヲ致セリ 又昭和十三年八月二十九日〇〇附近ノ戦場ニ際シテハマラヤノ爲連日四十度ノ發熱ニ苦シム病軀ヲ省ミズ自ら進テ大河内少尉指揮ノ前進衛生隊員ニ加ハリ〇〇附近ニ於テ傷者多敷發生スルヲ知リ率先擔架ヲ誘導シ之ヲ收容シ努メ〇〇向フ追撃ニ際シテハ險難ナル山嶽ヲ敢テ涉リ、傷者ノ搬送ニ任シ状況ノ後送ニ舟筏ノ必要ヲ知り對岸ヨリノ猛射ヲ意トセシ民舟數艘ヲ集メ河川ノ水量ニシテ下航スル如クナラザルヲ以テ自ら河中ニ入り深所ヲ偵察シ傷者後送ニ絶大ナル便宜ヲ與ヘタリ 斯クノ如ク沈著剛膽常ニ身ヲ挺シテ任務ヲ達成ニ邁進セル行動ハ他ノ模範トスルニ足ル依テ茲ニ之ヲ表彰ス

昭和十四年二月十一日紀元ノ佳節ニ際シ戦場ニ於テ

第〇〇師團〇〇隊長陸軍歩兵中佐 勳五位 鈴木喜芳

辯論大會の辯士は左の通り高坂支部、小松谷實、鈴木潔、渡邊正明、移川淺徳多賀喜一。峰根支部、小野宗三郎。以上

右終了後映畫を觀覽し、午後五時散會した。

◎本紙贊助金寄贈芳名

金貳圓 好問 水野虎三郎
金壹圓 平市 白旗保次

教育制度改革概論

矢野 恒太郎 大内民憲著 (四六版二二頁 定價五十錢 郵税六錢)

村會記

五月八日午前十時より村會を招集、左の件を議了。

合計金拾八萬壹千五百參拾四圓也

同第三區衛生區長名畑一義 世話係外山關太郎、佐久間平藝。

四、兒童養護上校醫三名看護婦五名付添ふ

平市長及町村長吏員等多數參列、會員七十余名出席し定刻に至るや大内聯合會長開會を宣し、國歌合唱、宮

日本社評論

發行所 東京三丁目 東京三丁目 東京三丁目

内郷村報社

長男亦製作場に就働して、あとの四兒を學校に通はせ、只管夫の武運長久を神佛に祈願しつゝ奮闘して居るの

、と同時に、故人の冥福を祈つて居る次第であるが、又殆んどそれと同時に、同氏が曩に亡き愛兒の追善の

行き詰れる現代の教育制度を解體して、學理と實際と、歴史と實驗とから新に大内案九主義を提唱す。天下知名の士の賛同攻撃に返らざる。されど未だ一人の執筆者も現はれず。

右終了後、助書を御覽し、午後五時散會した。◎本紙贊助金寄贈芳名 金壹圓 好問 水野虎三郎 金壹圓 白旗 保次

教育制度改革概論

大内民憲著 矢野恒太序 (四六版二一頁 定價五十錢 郵税六錢)

我國教育學界の權威 前京大總長小西重直博士 著

發行所 日本社評論 東京市橋本三丁目 取次所 内郷村報社

村會 記 録

五月八日午前十時より村會を招集、左の件を議了。議案第一號 第二小學校舊校舍位置變更並に模様替の件。

同第二號 村基本財産金貳千九百圓を小學校舊校舍位置變更並に模様替の費用に充つるため運用の件。

同第三號 前第一小學校長佐藤文雄氏に慰勞金として金壹百圓を支出するの件。

同第四號 昭和十四年度歳入歳出追加更生豫算

五月三日日比谷公會堂に於て、三等有功章を拜受したるは、愛國婦人會員大友タケ、鈴木イト、高萩ハル丹野初、足立ツナ、阿部マツノ、山崎チカ、佐藤シスの八名にして、特別社員章を拜受したるは、赤十字社員佐藤作藏氏の一名である

遺骨到着 今春滿洲國昂々溪歩兵部隊に入營したる三森三郎君には、其後病魔の犯す處となり、入院加療中の處、遂に死亡し、遺骨は遠藤曹長に擔され五月十九日午後六時六分綴驛着にて到着したるを以て、村内各名譽職各種團體代表等多數の出迎り驛前に於て僧侶の讀經後遺族其他の焼香ありて懐しの自宅に歸られた。

有功章拜受 五月三日日比谷公會堂に於て、三等有功章を拜受したるは、愛國婦人會員大友タケ、鈴木イト、高萩ハル丹野初、足立ツナ、阿部マツノ、山崎チカ、佐藤シスの八名にして、特別社員章を拜受したるは、赤十字社員佐藤作藏氏の一名である

衛生區長世話係 昭和十四年度に於ける各區衛生區長世話係氏名。白水第一區、衛生區長高橋庄之助、世話係長谷川幾次同第二區衛生區長吉田政信世話係渡邊正治、尾澤梅吉大内金市、根本義一。

同第三區衛生區長名畑一義世話係外山關太郎、佐久間平藏。

同第四區衛生區長鈴木金五郎、世話係野野輝吉、草野金四郎小泉新壽、藤源四郎、高橋養七、鈴木喜作。

同第五區衛生區長仲繪藤一、世話係宮本一馬、馬目太市。上綴衛生區長鈴木平藏、世話係箭内千代春、藤田金治渡邊重輝、渡邊高次郎。

同第六區衛生區長小林源三郎、世話係小野長明、大渡喜一。同第七區衛生區長齋藤直重、世話係山崎美隆、齋藤彌平。御既衛生區長大谷菊之助、世話係鈴木甚吾、高木貞利野木芳松。

御台境衛生區長綠川顯司、世話係高木長俊、野崎正利小島衛生區長志賀榮吾、世話係遠藤明治、吉田三郎。

小學校の修學旅行 本年度小學校兒童の修學旅行は、五月二十四、五の兩日を以て左記により實施することとなつた。

一、五月二十四日午前四時四十八分綴驛出發

二、東京市内見學の場所 宮城遙拜、明治神宮、靖國神社參拜、海軍館、遊就館、動物園。

三、兒童數 八百六十五人 付添教員數 四十人外に

方面聯合總會 石城郡平市方面委員聯合總會を四月二十日午前九時三十分より、平第三小學校講堂に於て開催したるに、

委員 方面委員 田口淳三

軍人後事務講習會記 本稿は前號に掲載する豫定であつたのであるが餘白がなかつたために本號にまはしたのである

余は三月十七日より三日間、仙台市圖書講習堂に於て開催したる軍人後事務講習會に出席したり。之が出席者の重なるものは東北六縣の軍人後事務主任にして、知事の指名により、一縣下より三十名づつ、出席したり。

講習會としては、恩賜財團軍人後務會長奈良大將代理遠藤中將、陸軍省恩賞課長山口少佐、傷兵保護院大庭事務官、厚生省青木事務官等にして、歸郷軍人、傷兵軍人及戦歿軍人遺族に對する保護指導等各般に亘る詳細なる説明指導ありて、援護事業の完璧を期するに共に、統後國民の心構ひに至るまで有益なる講演を聴聞したり。

因に軍人後務會は、昭和十三年十月三日、内閣總理大臣に賜はりた

勅語の旨を奉體し、戦歿軍人の遺族傷兵軍人及其家族遺族並に現役又は應召中の軍人及其家族に對する各種の事業を、政府の施設と相俟つて、統後援護の實を擧げ軍人をして後顧の憂なからしむることを目的とし、之れが貫徹を圖る爲、左の如き事業を行ふものなり。

一金六千貳百拾貳圓也 追加豫算額 一金壹千七百七拾七圓也 更正豫算額 一金十七萬五千三百貳拾貳圓也 已定豫算額 合計金拾八萬壹千五百參拾四圓也

一金十五萬八千四百六十七圓也 經常部已定豫算額 一金三千四百八拾七圓也 追加豫算額 同 一金壹千貳百七拾七圓也 更正豫算額 同 一金壹萬六千八百五拾五圓也 臨時部已定豫算額 一金貳千七百貳拾五圓也 追加豫算額 同 一金五百圓也 同更正豫算額

因に軍人後務會は、昭和十三年十月三日、内閣總理大臣に賜はりた

一、生業援護に關する事項 二、醫療保護に關する事項 三、生活援護に關する事項 四、育英に關する事項 五、慰籍に關する事項 六、身上相談に關する事項 七、統後援護思想の普及に關する事項 八、援護事業の助成に關する事項 九、其他目的達成に必要な事項

以上は法に依らず、市町村長の申請に依るものなれば頗る簡單なり

磐城炭礦 從業員各位

中支派遣軍 關本秀三



關本秀三君

謹啓 磐城炭礦の諸君、御健勝なる磐城炭礦從業員各位には益々御健勝なる事業の擴張に將又後進の爲め御活躍下さる由承り私達母國遙かな大陸に立つて其任務の重大を痛感いたします。共に郷國の皆様の熱誠溢る御聲援を絶大なる御後援に對しまして衷心感激に堪へません。

春と共に身輕に愈々戦闘力を増して参りました私達は益々誠私奉公以て皆様の御期待に添ふべく聖

戦の目標たる東洋永遠の平和建設の爲め一途に邁進を誓ひ扶翼の一片に投ぜんの覚悟であります。御座にて上海戦線以來本日迄頗る壯健にて御奉公致して参りました。今日はまた皆様の汗と熱意による鄭重なる慰問袋を御惠送下さいまして御厚情の程幾重にも御禮申上げます。

聖戰に二年有餘幾多尊き人柱となられた英霊が殉血を注ぎし此大陸も昨今では無智な支那住民の總てがまさしく目撃せし過去の戦禍の恐怖を忘れたかの様に又抗日の悪夢から目醒めた歸順兵も明朗支那建設に力強く皇軍と共に歩調を共にして動く姿を各地隨所で見受けらるる情状を見受

漢口は流石に世界の漢口であつて仲々の大都會で東京の丸の内或は銀座にも似た街が多敷あり立派な高層建築もあちらこちらに其の巨體を見せ居ります。其の漢口も我が軍警備の下に復興しつつあり支那民も亦日本軍保護の下に全く安心して生活を居ります。美人姑娘(メーレンクニーヤン)が三人四人と組んで街を歩く姿も支那情緒萬端です。

曠野と山嶽にのみ作戦致して参りました私達部隊はアスファルト舗装の道路を歩くのも混雑土造りのビルディングを見上げるのも實に珍らしく漢口の街に入った瞬間内地の都會へにでも歸つたやうな感じが致しました。又漢口の揚子江岸

壁には多數の御用船が横づけされて支那人苦力を使つて糧秣や〇〇を盛んに陸揚げしてゐるを見るにつけ銃後の心強さを感ずる次第です。

漢口に於ける我空軍の爆撃の跡を見今更日本空軍の的確なるには只々驚かばかりです。三米位しかない道路を挟んで右が支那街左が第三國の租借地になつて居るので支那が外國租界の建築は其まゝに支那街文は影形もなく破壊され居ります。尙私達の從軍コース等も詳細に申上げ度ありますが事作戦に關しては過去の作戦経過も雖も遺憾を申上げる事を差控へます。

聖戰貫徹と長期建設の爲に各々は戦地にあると否とを問はずに重大な國難に際し各々其任務に職務に愈々一致協力して御國の爲に御奉公致すべき秋と思ひます。

村報の一端をお借り致しまして御禮を申上げると同時に從業員各位の御健康をお祈り申上げます。(昭和十四年四月三日)

市川タキセ先生を憶ふ

内町校長 遠藤廣亥

市川タキセ先生は、本郡泉村泉田に生れ、大正六年三月二十六日創立磐城高等女學校卒業、大正十一年六月十日同校附設尋常小學校本科正教員養成所卒業、尋常小學校本科正教員の免許状を授與され大正十二年六月七日内郷第二尋常小學校訓導に任命せられ、昭和十四年一月十二日病氣の爲依願退職其間勤続十六年、熱心に職務してゐたが、昨年八月十五日病氣のため東京、東京大學病院に入院手術を受け、其後経過良好、十一月四

日から再び出勤したか、病氣再發したので、退職の上只管静養に努められたが、遂に起らず、四月二十四日死亡されました。享年三十九歳。遺児三男三女あり、長女すみえさん十八歳、福島女子師範に在學し、亡き母の道を進むにも、なほ三年の日子があります。

市川先生の風貌の印象は「丸」に盡きる。圓い顔、圓い指、圓い體首を稍左にかしげ、丸く孤を描いて歩く様にさへ見えます。風貌の丸さに似ず、心は勝負できつく、

このきつさは公務に反映し、私生活に滲み、これが却つて死期を早めはしなかつたかとも思はれます。

私が着任二日目に、其は掃除の時でした。私は自席にゐたら先生の肩にブラシをかけて呉れる女「誰方ですか」と尋ねたら、「市川です」と、目を細めて應へられた。右から廻つて後向きになり、例の歩き振して次の仕事にかゝられた。一番先に名を記憶された市

二月ひで子さんは磐城三年に、長男祐徳は二年に、二男次郎は四年三男芳英は二年に在學してゐるが、何れも成績は悪い方ではない。祐徳は來年中學入學志望で、先生は病床でも其の氣にこし入れて見せる。なにが子の一人も成人姿を見ることがなくして、永遠に去り行く先生の心中、さこそおもひやられ、人生は斯るものかも知れないが、宿世の縁を諦めるには、餘りにも痛ましき淋寥の一生ではなかつたかと思ふのであります。さはいふもの、六人の遺児の胸には、先生の血が通ひ傳へて居る。先生に教へられた子女の心には、先生の思ひが生きてゐよう。断ち難き煩惱苦悶の彼方に、清淨無雜なイデアの世界を見出すことでありませう。

鈴木綾園 春の宵まごかなる月窓にあり 齋川の孫太郎虫や水温む 二階より見下す庭に下扇す うつくしき人病みてある春燈下 待てまごね郊外電車線の晝 行く春やそむき人のなつかしく 春の夜の膝にすべりと黄楊の櫛 開けはなつ窓に親しや春の山 一めぐりしていこひけり春の山 千葉 千歳 梅咲いてふるさとの山なつかしく ふせておく裏のあせたるコート哉 鈴木六郎 燕さぶ信夫文字摺留場 鈴木三枝子 俳句つくる一族たのしきくら餅 鈴木さの子 春雨の傘をた、みて花を切る 鈴木さの子

十月の末學校に來られて、四五日後から又出勤される言ふから私には大患手術後のことであり殊には病氣が病氣でもあり、今迄働いたので十分お役に立つたのだから、今後は後顧の憂無く、誰にも氣がれずすることなく十分静養し餘生を子女のために送るがよきはないか、小學校の訓導は相當の激務だが、健康はこの激務に堪へるかどうかが、よく自分の體を主治醫にきいて、進退を決したらよくはないかといふ意味のことを繰返して語つたのであつたが、私の考へは容れられず、十一月四日から出勤し、相繼らず熱心に勤められた。成る程容形は病氣前よりたしかにきれいになつたが、併し健康は遂に堪へられなかつた。

××月××日から休み、四月二十日遂に亡くなられたのであります。願へば在職十有六年、頑丈な體も勝氣な心さで、病減らずに病狀もせず、多數の先生方に伍して堂々送る所なき成績をあげつ、恩給年限の一步手前で、不治の大患に仆れたのは、惜しみても餘りある一生であります。

内郷村報の 六大使命

- 一、政權政體を體察して、村力充實主義を標榜す。
- 二、村内外公私各機關の活動状況を報導し併せて其協力を計り、進取和進努力の實現を期す。
- 三、本村社會事業の徹底を期す。

- 四、村内の善事善行を表彰し、且之を獎勵す。
- 五、本村出身者及本村関係者との聯絡を計り、且其發展向上を期す。
- 六、國民教育に當る。

本報發行は六内一報の事業にして、其の社務は子孫に傳ふるべき道を開くものなり。

本報定価 一部金五五(一ヶ年)部金四八(二ヶ年)部金四一(三ヶ年)部金三三(四ヶ年)部金二五(五ヶ年)部金一七(六ヶ年)部金一〇(七ヶ年)部金〇五(八ヶ年)部金〇三(九ヶ年)部金〇一(十年)部金〇一(十年以上)部金〇一

發行所 内郷村報社 大内 民 惠 福 島 縣 市 一 丁 目 二 九 番 地 電話 四 四 〇 〇

印刷所 平 活 版 所

行發 日五十月一第

天法人則 從順ナ